アディポサイトカイン分泌異常の肥満症・メタボリックシンドロームにおける意義

KEY WORDS
●アディポサイトカイン
●アディポネクチン
●アディポリン

名古屋大学大学院医学系研究科分子心血管病学
大橋　浩二，大内　乗有

はじめに

メタボリックシンドロームは内臓脂肪蓄積を基盤として，２型糖尿病，脂質代謝異常，高血圧などを個人に集積させ，最終的に動脈硬化性疾患を引き起こす病態である。しかしその詳細な分子メカニズムに関しては明らかではない。脂肪組織はアディポサイトカインと総称される生理活性物質を分泌し，近傍や遠隔臓器のさまざまな病態に関与する。アディポサイトカインの多くはTNF-α（tumor necrosis factor-α），IL-6（interleukin-6），MCP-1（monocyte chemoattractant protein-1）のように炎症惹起性であるが，一方でアディポネクチン，アディポリンは肥満でその発現が低下する抗炎症性のアディポサイトカインであり，肥満関連疾患，すなわち２型糖尿病，高血圧，さらには動脈硬化に対して防御的に作用することが報告されている。本稿では，アディポネクチン，アディポリンについて，筆者らの自験例を中心に概説する。

Ⅰ．アディポネクチン

血中アディポネクチン濃度はbody mass index（BMI），内臓脂肪面積と負の相関を示す。また２型糖尿病患者，高血圧患者，冠動脈疾患患者では健常者と比較して，血中アディポネクチン濃度は有意に低下を示す[1)]。アディポネクチン欠損マウスは，高ショ糖，高脂肪食負荷により惹起される２型糖尿病，高食塩食負荷による高血圧，薬剤

The significance of adipocytokines in metabolic syndrome.
Koji Ohashi（講師）
Noriyuki Ouchi（教授）

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.